

ひまわりからの メッセージ

128号
2022.5.9
NPO ひまわりの花内
西濃圏域
発達障がい支援センター
発行人: 中野たみ子

母の日に 感謝をこめて



今年も母の日が巡って来ました。
皆さんのお母さんはどんな方だったのでしょうか。
私の母はとも真面目で融通がきかず厳しい人でした。
一人っ子の私を甘えさせることなく育てました。食べものの
好き嫌いが許されるはずもなく、嫌いな人參は常に
調理法を変えられて食卓に並びました。友だちの家にあ
そびに行くと約束の帰宅時刻が少しでも遅れると家に入
れてはもうえんないということも一度や二度ではありませんでした。
そんなふうに着った私も母となり。娘たちは毎年母の日にフ
レゼントをしてくれます。花やメガネケースや小物など、娘た
ちは様々な考えて贈ってくれるのですが、これまでで私が一番
うれしかったのは「Memory」という小冊子でした。そこには

娘たちそれぞれが祖母との思い出をフツツ書いた文章とカット
が描かれています。そして一ページごとに小題がつけられていて、
ベージュあめ、やかん、授業参観、おままごとセット、うぐいす、お手玉
にお絵、まいご？、花の水やり、ぼうずめくり、ヘアアイテム等々、
上の娘が二十七篇、下の娘が十五篇の祖母との思い出がフづられて
いるのです。

母の日の今日、久しぶりに「Memory」を
ひもといてみました。そこには、母親とし
て私に見せたことがなかった母の姿があり
ました。

かぼちゃの春巻き
かぼちゃが好きだった
おばあちゃん。
「あんたの作る かぼちゃの、
おいしいな。また作ってな」
と喜んでくれた。
もっとたくさん食べさせてあげ
たかったね。

きつね
小さい頃、おばあちゃんと
お風呂に入ると、手で「きつね」を
つくって お話をしました。
ちよと 貴地舞は きつねに はたり
弱虫は きつねに はたりして、
遊びました。

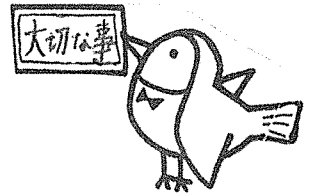
若い頃から仕事に夢中だった
私に代わって娘たちに日々愛を
注いでくれていた母の日常があ
りました。

「Memory」を読みながら、そんなこともあった、こんなこともあった
と生前の母の姿を目に浮かべ、高齢出産で、しかも難産で、死線
をさまよいつつ私を産んでくれた母のことをしみじみと思い起こした
一日でした。お母さん、ありがとう!! 母の日は感謝の日です。
そして、どうか虐待のない世になるように……と祈りました。

視覚機能と

ビジョントレーニング

LD・ADHD & ASD



ビジョントレーニングについては、以前にもご紹介したことがありますが、特別支援教育士認定協会が発行している「LD・ADHD & ASD」の最新号（No. 14）に特集がなされたので、再度取り上げてみました。

視覚機能の三段階

かわばに眼科院長の川端先生は、視覚機能を三つの段階に分けて説明されています。

① 外界の情報を取り入れる入力系（視機能）

視力、屈折（近視・遠視・乱視）調節機能（ピント合わせ）
眼球運動、両眼視機能、色覚など眼科で検査される機能

② 入力された情報を認識する視覚情報処理系（視覚認知機能）

形態、空間位置関係、動きなどの認識

③ 入力情報を運動機能に伝える出力系（視覚運動統合）

読み、書き、目と手の協応など

学習に問題が認められる場合、視覚機能の三つの段階のどこに

問題があるのかを意識し、総合的な評価を行うことが大切だと書かれています。三つの段階とは次の三つです。

- ① ちゃんと見えているか？
- ② ちゃんと理解できているか？
- ③ ちゃんと表現できるか？

川端先生は、平成十四年八月～平成二十年三月までに育視舎相談支援センターを受診し、LD、ADHD、ASDの確定診断がなされている児（六歳～十二歳）八十八名について次のように報告されています。

(1) 視力について……つまり、この表から見ると、平成三十年度の

| | LD | ADHD | ASD | 学校保健統計調査 |
|---------------|-------|-------|-----|----------|
| 裸眼視力 1:0未満 | 64% | 56.5% | 68% | 34.1% |
| 0:3未満 | 22.5% | 34.0% | 27% | 9.28% |

学校保健統計調査結果確定値と比べてLD・ADHD・ASDの子どもの視力は、かなり弱いと言えます。

(2) 屈折異常

角膜や水晶体からなる眼の屈折力により見ているものの像が網膜上に正しくピントが合う状態を「正視」といいますが、人によってはピントが合わない場合があり、これを屈折異常と言います。

健常児と発達障害で分布差は見られなかったようですが、末矯正が多くあった

ということでした。

(3) 調節機能

LD児では比較的正常的な調節機能をもつ児が多かったのに対し、ADHDやASDでは減弱が多く、ASDでは検査自体できないこともあったようです。

(4) 眼球運動

追従性眼球運動(ずと目で追う)や衝動性眼球運動(注視点をすばやく移す)の検査では、ASD児は問題のない児が多く、ADHDでは上手くできない児が多かったとのこと。LD児では追従性にはできなかったのに衝動性(飛躍性)の方は上手くできない児が多くみられたそうです。また、眼球の方向としてLD児は垂直、水平共にうまくできない児が多かったとのことです。

(5) 両眼視機能

私たちは左右の眼それぞれから送られる二つの像を視覚中枢で重ね合わせることで立体感を感じていますが、発達障害では、立体視の低下が57パーセントもあったということです。

こうした記述を読むと、発達障がいの特性をもつ子どもたちは、視覚情報の入力の段階ですでに困っていることが多いわけですが、しかも視覚情報処理でも、視覚運動統合の段階でも困っている場合も多いわけですから、子どもたちと接する私たちが子どもたちの困りをいかに早く気づけるかと

いうことが大切になってくるのです。

オプトメトリストって何？

オプトメトリストということばを聞かれたことはあるでしょうか。オプトメトリストは視力や目の健康のサポートをしつつ目の機能や認知面など幅広いビジョンケアをする専門家のことです。欧米諸国では国家資格になっていますが、日本では「認定眼鏡士」をオプトメトリストと言っている所もあるようです。また、ビジョントレーニングに関しても、アメリカでビジョンケアの発展が見られる一方で、その有効性について反論する人たちもいるというのですが、どの時代にも様々な学説が出て来て、それに反論する人がいて、検証がくり返されていくものです。ビジョントレーニングにも同じことが言えるのでしよう。

ただ日本でも療育や教育の場でビジョントレーニングが取り入れられて成果も報告されてきています。オプトメトリストという国家資格はまだありませんが、アメリカの大学院で学んだり、より専門的なビジョントレーニングの専門家が増えてくると良いと思います。

近年の研究

近年、さかんに研究が進められているものに、輻輳不全などの両眼視不良があります。両目のチームワークが崩れてうまく出来て

ない状態のことで、輻輳不全があると、注意力散漫や集中力の低下などが高い頻度で見られ、読みを中心とした学習面の成績低下も見られます。輻輳不全に対するビジョントレーニングに関してはトレーニング後の脳機能の改善など客観的なデータも出されているようです。

又、発達障害の支援に使われているICTを活用したビジョントレーニングもあり、子どもたちがゲーム感覚で楽しく意欲をもってトレーニングできるようです。(「見る力を育てるビジョリアセスメントWAVES DIGITAL 学研」)

ビジョントレーニングの広がり

通級指導教室などでビジョントレーニングを取り入れている所は多いようですが、机に向かっその課題が多いように思います。しかし、眼球運動のトレーニングや視空間認知のトレーニング、眼と体を動かす運動トレーニングなどは、もっと採用されても良いトレーニングでしょう。

ホワイトボードに数字や平仮名、図形などをマグネットで貼りつけて指示されたものを取ったり、ビー紙に数字を書いておいて、順に線で結んだり、吊るした風船の中から指示された色の風船を探してジャンプしてタッチしたり、少し遊びの要素を入れながらのトレーニングも工夫してみるといいでしょう。また、色々な図形を作っておき、先生と同じように模様を作

ってみたり、「青い三角形の上に赤の丸を置き、その右に緑の四角を置いて…」等、指示に従って図形を形づくっていくことも楽しいかもしれません。

いずれにしても、一人ひとりの子どもがどこで困っているのかを知ることも、大事なスタートです。低学年の時から困っていたのに、誰にも見つけてもらえず、困ったまま高学年になっしまっているなどということがあつてはならないことです。読み書きに困っている子がいたり、視覚機能は大丈夫なのか、まず疑ってみましょう。川端先生の言われる三段階のどこで困っているのか、分かるなければ、トレーニングの方法も違ってきちゃいます。まずはアセスメントをしっかりとしてからですね。

視機能の
アセスメントツール

WAVES を
貸し出しています。

ご利用になりたい
場合にはセンターへ
お申し出ください。

0584-84-8350

※貸出し中の場合は
お待ち下さい。

お知らせ

センター親の会 6月例会は13日(月) 9時30分
サイトピアセンター 612です。

